



Reincarnation Liberal Arts

転生自由七科

The Life Change

- 人生100年時代の命運転換プログラム -



session3

## 過去生も未来生も含めて 今生100年を生き切る

柳田：皆さん、こんにちは。

石崎：石崎絢一です。

柳田：ナビゲーターの柳田厚志です。そして今回もですね、七沢研究所の統括役員の大野さんにも来ていただいています。大野さん、よろしくお願いします。

大野：よろしくお願いします。

柳田：ということで石崎さん、セッション3までできました。

石崎：もうね、最後のほうに来ましたね。

柳田：本当に大反響になってましてですね。

石崎：そうですね。ちょっと難しいテーマに感じてらっしゃるかもしれませんが、このテーマをですね、扱う時期に来ているということですね。

柳田：そうですね。おそらく皆さんも、ここまで熱心にご覧になった方はですね、最初はもちろん分かりやすい、入りやすいところから我々も進めてきましたけれども、どんどん、どんどんライフチェンジが当たり前な感じで来ていますけれども。

石崎：偉才の吉川さんもね、出演もしていただきましてね。





柳田：前回、本当に大反響でしたね。

石崎：なかなかああいうキャラのね、成功者の方ってそう見ないと思うんでね。

柳田：見ないですね。やっぱ、あれだけの企業やってたら大体、社長さん像ってあるじゃないですか。

石崎：そうですね。

柳田：全く違うという。

石崎：全くもう、どのカテゴリにも属してないね、独自のですね、生き方されてますよね。

柳田：まさにライフチェンジ。

石崎：ライフチェンジですね。

柳田：ですね。多分、皆さんももうね、ライフチェンジが頭から離れないじゃないかなと思います。

石崎：そうですね。手前味噌ですけどね、吉川さんも十分成功されていたんですけど、また私たちと知り合っていていただいて、研究所のいろんなもの取り入れてですね、更に加速しているということでしたんでね。

柳田：そうでしたね。本当に。吉川さん、お会いしたい方もたくさんいらっしゃると思うんですけども、ぜひですね、本編で来ていただければなと思いますが。大野さん、ちょっとセッション2までを振り返ってですね、最初に総括というか、お話伺いたいんですけども。

大野：前回、吉川さん出ていただいて、いろいろお話いただきましたけども、伺っていて思ったことはですね、セッション1とか2でもお話しましたように、まず正しい情報を持っているということですよ。社内のいろんな出来事に関してもですね、自分の目で確かめて、自分で数値化するっていうことをやっておられますけども、それは社内だけでなく、吉川さんが取り入れる情報っていうのがですね、本物を中心に取っているわけなんですね。で、それによってですね、吉川さんの事業家としてのス





トーリーがしっかり描けているっていう、それを感じたんですよ。

石崎：これね、私思うんですけどね、いろんな成功者の方いるじゃないですか。これ、別に事業に限らずですね、いろんな分野で成功している人っていらっしゃるんですよ。で、自分の人生、生き切っている人というのは、会っていて気持ちいいんですよ。違和感とか嫉妬とかないんですよ。

けれど、なんか、そうじゃない方ってどれだけすごく成功されているように見えても、やっぱりちょっと違和感持ちちゃったり、ちょっとあまり仲良くなりたくないなとかですね、やっぱりそういう感情が僕のほうは立ち上がってくるんですね。吉川さんなんか、会った時から好きになったし、お互いですね。それは分かり合えた部分があるんですけども。そこが大きな違いのような気がしますね。生き切っている人と、うまくやっている人との、ちょっと差がそこに出ているんじゃないかなと思いますね。

柳田：なるほどですね。確かに本当に、他人の人生を生きている人はたくさんね、いらっしゃると思うんですけど、まさに吉川さんは自分の人生を生き切っていると。

石崎：そうですね。本当の自分の魂にとって必要な情報をしっかり受け止めて、その上で自分の人生を展開しているっていうね、方ですよ。

柳田：なるほどですね。研究所的にも、本当の情報を掴んでやっているということだったんですが、ちょっとセッション2で言霊とかですね、そういったことも結構出てきましたので、ちょっと大野さんからミニ解説をしていただいてもよろしいですか。

大野：結局、何をしているかといいますと、ストーリーを作っているっていうことなんですよ。言葉っていうのはもちろん、普通の会話でも使われますけども、この命運っていう観点で言いますと、自分のストーリーをですね、言葉で明確に作りますと、その方向に動いていくわけですね。

これは、その言霊が実現するっていうことであらうと当たり前でもあるんですけども、この運命とか命運っていうことと言いますと、そのストーリーがあるかないかで全く人生の展開が変わっちゃうわけですよ。もちろん、本物の情報が入ってくれば当初のストーリーを変えてもいいわけですね、それはそれで。例えば、普段仲良くしていた人がですね、あるいは家族ぐるみで付き合っている人がいたとして、その人が実は詐欺師だという本物の情報が入ってきた場合には、もう付き合うのやめちゃいますよ





ね。

つまり、本物の情報が入ってくると流れがバツと変わっちゃうっていうのはですね、例えがいいかどうか分かりませんが、目の前の人がそういう人だと知った場合には全然また違う展開になるわけですし、当然、正しい情報で動いていないと、ストーリーも間違っちゃうわけですよ。この人と一緒にこれから頑張ろうなんて思っていると間違えたストーリーになるわけですし。ですから、そういった情報を正しく入れるっていうのもですね、それも一つの意志の現れなので、それ自体も言霊になるわけですよ。

柳田：七沢研究所というのはもともとというか、世界最高峰の言語エネルギーの研究機関でもあるわけなんですけれども、そういった中から本当にもう、科学的なところからそういう言霊っていうところ、周波数っていうところもですね、全部研究された上で世の中に出している。正しい情報を出しているという機関なわけなんですけれども、ちょっと補足ですね、セッション2ですね。出てきましたのでお話ししていただきましたけれども。ということで、セッション3に。

石崎：そうですね。

柳田：いつてみたいと思うんですけども、セッション1はですね、まず、私たちの中にある不安な個人という部分に焦点を当てて、そして、人生100年時代になってくる中での生き方、どうなっていくんだということをちょっと示しました。そしてセッション2ではですね、命運を変えてということで、命運っていうのはあるということですね、そしてそれを変えることもできると、正しい情報あれば、ストーリーを描けるということだったんですけども、そういった話をしてきました。そして、セッション3はですね、このテーマになります。更に踏み込んでますけれども、過去世も未来世も含めて今世100年を生き切るという話です。

石崎：何かよく分からない話になってきたように感じるかもしれませんが、これが大事なんですよ。

柳田：そうですね。もうここを扱っていかないと、表面上のね、話だとあれなので。

石崎：やっぱりいろんなアイデアが出ていますね。前も言ったようにパラレルワークとかですね、仕事を複数持つとかですね、あったじゃないですか。そういう展開だけじゃなしに、もっと根本をいじらないと100年、多分生き切れない時代が来ていると





思うんですよね。吉川さんなんか見ていると、100年ちゃんと生き切ると思うんですよ、あの人、ブレがなく。そうならいいんじゃないかと思うんですね。

柳田：なるほど。でも本当に、このさらりと書いていますけど、すごいことですよね。

石崎：そうですね。

柳田：過去も未来も含めて今回の人生を生き切ろうというテーマでお話を進めていきたいと思いますが、まずこちらのスライドをご覧くださいんですが、これが今までの歴史というか、と、そして今、そして未来という形でいろいろ出来事とか書いていますけれども。

石崎：そうですね。どうしても私たちですね、五感に閉じ込められていますから、今の自分の状態からでしか人生、設計できないんですね。展開できないんですね。となると、今年が2017年ですね、の中での自分で、どうしてこう、ああしてこうかって考えているわけですけど、仮にですね、過去世、未来世があるとすれば、今っていうのはもっと広がりの中の一点っていう見方ができるわけですよ。

これがないっていうことであれば、もうここしかないんで、ここの中であれこれ画策とかですね、考えようとするんですね。あと情報取ったりとかするんですけど、広い中の一点ということであると、またその展開だとかですね、情報の取り方も変わってくる、当然だと思うんですよね。

柳田：なるほど。石崎さんがずっとおっしゃっている、意識を広げて。

石崎：そうですね。

柳田：というところにもつながってくると思うんですけども。

石崎：広がりの中から今の人生を見たら、なんだ、なんだ俺こんなのなんだって。もっといろんなことできるじゃんとか、あっちにも世界があるじゃんとかですね、見え方とか行動のとり方変わってきますよね。

柳田：なるほど。それが多分、今の人たちというのは、例えばこの話を知らない、ライフチェンジとか知らない方はですね、今の人生の部分、今の黄色の部分、だけで捉





えて、生まれてから死ぬまでって形で捉えていると思うんですけども、これも更に広げて、昔、過去世もあった。あるいは今後、生まれ変わりもあると、未来世も含めて見た時の今世ってことなんですね。

石崎：そうですね。

柳田：そうすると確かに、それを含めて考えると今って。

石崎：そうですね。もっと、自分のライフデザインじゃないんですけども、人生設計が変わってくるってことは。

柳田：変わりますよね。なるほど。大野さん、こちらスライド通じてどうでしょうか。

大野：石崎さんおっしゃったように、もちろん今の人生っていうのはすごく大事には違いないんですけども、過去世ですね。また現世、また未来世っていう全体を、例えばスクリーンのようにですね、俯瞰しながら見るとですね、つまり現世がどうあるべきかっていうのがよく見えてくるわけですね。

つまり過去の流れが、もちろん、これは簡単には分からないところもありますけども、実際、そういうの分かるような機械も私ども、開発してまして、それが分かった。また未来が見えたっていうことがあれば現世が決まるわけですね。セッション2でですね、時間っていうのは、過去から現在に流れているっていうのもありますけども、未来から現在に流れている時間もあるっていうのがですね。

柳田：ありましたね。

大野：量的に分かってきたっていうのがありましたけども、まさにこの今っていうのはですね、過去から来ている今であり、未来から来る今っていう見方がありまして、そのためには、この今の自分だけ良ければいいっていう考えではなくて、過去も未来も含めた中での今っていう捉え方をですね、する必要があるわけなんですね。

柳田：そうすると、この矢印がですね、赤から黄色、緑というふうになっていますけれども、逆からもあるということですね。

これ例えば僕らは、例えば今の人生で考えて、よく「将来の子どもたちのために今頑張ろう」とか「ちゃんとしよう」ってあると思うんですけど、それが、僕ら自身も未





来世もあるということ。

石崎：ことっていいと思いますしね。渴いてくるんでしょうね。本当、成功している人でもすごい心渴いている方、いっぱいいますからね。

柳田：そういった意味で、こうやって俯瞰してみると本当に見えてくるものあるんじゃないかと思うんですが、ちょっと過去世、未来世って言っていますけれどもですね、こちらのちょっとグラフを見ていただきたいんですけれども、こちらは2008年に、結構もう、10年くらい前の調査ですけれども、国際調査で日本人のですね、生まれ変わりはあると思いますか。なんと42%の方が「ある」と。

石崎：結構多いですね。

柳田：「ない」という方よりもはるかに多いんですけれども、実はですね、アメリカだと、アメリカでもですよ。キリスト教の国でも31%の人が「ある」と。

石崎：すごいですね。

柳田：いうことで。あとトルコは9割の方が「ある」らしいですけど。

石崎：ほとんどもう信じているということですね。

柳田：信じているということらしいんですけれども、こうしてみると、なんとなく僕らもあるんじゃないかなっていうのはですね、日本人でもほぼ半分の方が薄々思っているという。

石崎：そうですね。少なくともですね、ないっていう証明は誰もできてないわけですね。あるという証明もできてないかもしれないですけど、ないという証明もできていないので、どちらが正しいということより、自分はあると思うということであれば、そういう設計をすればいいと思うんですよ。

柳田：そうですね。見ている方もおそらく半分くらいの方、今、10年たっていますからもっと増えているんじゃないかなという。

石崎：そうですね。





柳田：気もしますけれども。こういった形です、多くの方も生まれ変わり、あるというふうに思っている。更に、アカデミックな権威というかですね、そういう見地から見てもですね、この方も有名だと思えるんですけど。

石崎：そうですね。ワイス博士といえば有名な方で。

柳田：前世療法の世界的権威。

石崎：そうですね。未来世の療法もできるんで、本当すごい方ですね。で、スタローンさんですとか、俳優の。ダイアナ妃なんかも、ちょっと亡くなる前に「見てほしい」ということでご予約入れてあったそうですね。

柳田：本当に、まさに本のタイトルで『前世療法』、『未来世療法』とありますけれども。

石崎：そうですね。

柳田：そういった形で、これはもう確実というか、あるという形での本が、これ 1988 年の本らしいんですけども、200 万部以上売れているということ。

石崎：そうですね。多くの方たちがワイスさんの療法に関心を持って、劇的にやはり変わるそうですね。で、今回扱っているこのライフチェンジもそうですけど、今世だけで捉えてしまうこの人生観というか、その人生のデザインなのか、過去世、未来世を含めて今世どうするのかっていうのは全然違うわけですね。例えば過去世に問題があったとして、それを引きずったまま前世に来てた時ですね、やっぱり本人の努力とかではどうしようもない部分があったりするわけですね。

柳田：なるほど。さっきの図じゃないですけど、まさにそこ、俯瞰してみたらこっちに問題があったと。

石崎：そうなんですね。

柳田：ということですね。ここだけじゃないよと。現世だけじゃないよ、今世だけじゃないよということですよ。

大野さん、この、先ほどちょっと幾つか見てきましたけれども、多くの方が生まれ変わりを信じてたり、こういう前世療法、こういう世界的な権威の方もですね、前世療





法、あるいは未来世療法というようなことを言っていますけれども、大野さん、いかがでしょうか。

大野：私どもはあって当たり前という考えなんですけども、仮にこれがですね、フィクションであってもいいかなと思っているんですね。つまり、人間には共同幻想とかね、いろいろありますんで、あると言えばあるというふうになるケースもありますけども、実際に過去世があつて、現世、未来世があるというふうに見立てるとですね、全く、仮にそれがフィクションであつたとしても、今という時間の価値がですね、全く変わってくるんですよ。

柳田：この後、更にですね、踏み込んで、その過去世、未来世についてお話を伺っていきたいと思います。ということで、場面も変わりましたけれども。

石崎：時計が流れていますね。

柳田：流れていますね。いいですね。この感じでお伝えしていきますけれども、つまりは、ここまで見てきた、話を聞いてきましたけれども、つまりは、今の人生、生き切るには、あなたの過去世を知らなければいけないと。

石崎：そうですね。

柳田：当然なってきますよね。

石崎：なってきますね。

柳田：この世界を信じると。フィクションであつたとしても信じるということであれば、当然、過去世を知らないといけないと。

石崎：そうですね。

柳田：いうことになってきますよね。

石崎：なってくると思いますね。

柳田：じゃあ、過去世とは何なのかという、なかなかディープなテーマになってきますけれども。





石崎：過去世って、何ていうかですね、自分でなかなか証明がしにくいと思うんですね。先ほどのワイス博士のような退行催眠かけていただいて、お母さんの子宮にいた更に先の時代まで意識を戻したりするテクニックがあるわけですけど、その時になんか、自分ではない言葉が出たりですとかね、昔の、何ていうんですかね。習ったこともないようなギリシャ語をしゃべったりですとか、急になんか刀に切られるような気がして騒ぎ出したりとかですね、あるそうなんです。

柳田：過去世があったと仮定しないと、説明がつかないような。

石崎：そうですね。ギリシャ語なんて習ってもないのにしゃべっていたりとかするわけですね。

柳田：そうですね。ご自身では今どう思っていますか。過去世はあると？

石崎：あると思いますね。やっぱり、今世だけでは、柳田さんもそうだと思うんですよ。自分が今やられている仕事って、なんかどんどんアイデア湧いてきたりですとか、あんまり苦勞がないっていうかですね、苦勞は当然されているとは思うんだけど、何ていうかな。どんどん降ってくるみたいなケースがあると思うんですよ。あれも、一説によると、やっぱり過去世からの積み上げらしいんですね。

柳田：なるほど。

石崎：これ本当、不思議なんですけど。

柳田：でもそれを、今回のテーマというのは、そういったことをしっかり知った上で。

石崎：そうですね。

柳田：今の人生に生かしていこうというか。

石崎：生かして、幅広い意識体の中からこの今世を捉え直してですね、しっかりライフチェンジやってこうっていうことですよ。

柳田：ですね。大野さん、過去世について聞かせていただいてもいいでしょうか。





大野：このセッションでもお伝えしていますように、81回の生まれ変わりの中のどの部分であるかによってですね、過去の数も変わってくる側面があるんですね。現世ということと言えますと、今の自分に影響を与える過去世は何かってというのは結構、捕まえとくとですね、有意義といたしますか。で、それは先ほど石崎さんがおっしゃったように、何か分からないけども無性に惹かれるとかですね、理由は分からないけど無性にこれが好きだとかですね、やっぱあるんですよ。

自分の過去世がどうだっていうのは結構、自分で調べたりもですね、したことがあるんですけども、やはりそれで調べてみますと、なぜこういったことに関心があるとかですね、非常に分かりやすいついていうか。

柳田：なるほどですね。ちなみに、何だったんですか。

大野：講座でですね、また。

柳田：なるほど。

大野：第二次世界大戦で戦っていたっていうのはあるんですけどね。個人的にはね、もう本当にあって当然っていう感覚ですね。

柳田：なるほどですね。続いていってみたいと思うんですが。さあそして、過去があったら次は未来なわけですけども、未来世はあると。

石崎：そうですね。過去があるってことは未来もあるってことですからね。私が思うのは、この人間って何なんだろうっていった時に、やはり意識体だと思うんですよ。肉体は持っていますけど、やっぱり根源の部分は意識なわけですね。だから、その意識のために地球とか宇宙があるっていうふうに捉えているんですけども、そうするとですね、要は肉体を持って生きられるのが80年、100年とする中で、やっぱり学べることっていうのは一部になってしまうと思うんですね。どうしても。

柳田：やっぱり、根幹、意識とおっしゃいましたけど、魂とか意識とか、その部分はずっとなくならないで続いて行って、肉体はね、いろいろ変わっていくかもしれせんけれども、そう考えると確かに、今回のテーマは81回ということも言っていますが、未来世は当然あるという我々の結論なんですけれども、大野さん、こちら、未来世についても言える範囲でいいんですけども、今のお立場から聞かせていただいま





すか。

大野：過去世があって現世があるということは、単純にこれ、過去から見れば現世が未来世になっただけですよね。ですから、過去世があるということイコール未来世があるというのはある種、当然といたしますかね、当たり前の流れになるわけですが、ただ、ここでお話したいことはですね、結構、過去世を調べて現世を良くしようって方はだいぶ増えてきましたけども、未来世っていうですね、概念。これに基づいて動く人っていうのは意外と少ないんですよ。過去と今っていう意味では皆さん、取り組まれますけども、実は未来もあるっていうことが分かっていると、当然、今の生き方っていうのも、繰り返しになりますが変わってくるわけですよね。

柳田：ですね。ちょっともう、これ以上はね、ここでは。

石崎：そうですね。

柳田：つまり、過去世だけじゃなくて未来世を今の人生で生きるにはと。

石崎：そういうことですね。

柳田：未来のやるべきこと、使命も含めて今回、生きるという。

石崎：より凝縮してしまおうっていうことでしょうかね。

柳田：なんとなく、未来は未来であったとしたら、じゃあ未来は未来でやるんじゃないかと思いがちなんですけれども、それもライフチェンジでは、それも含めて今回、生き切ろうという話ですよね。

石崎：そうですね。短縮できるっていうかですね、より早くですね、どんどん魂っていうか、意識の進化をしまおうっていうことにもつながると思うんですね。

柳田：例えば僕も、この、今回ライフチェンジに出会う前はですね、未来世っていうのは、先ほどのお話もありましたけど、いまいち想像つかない。その中で、例えば子どもたちに、将来の子どもたちに素敵な未来になってほしいっていう思いはあったとしてもですね、ただそこまで、言葉としての響きは美しいじゃないですか。「子どもたちに」みたいな。





石崎：そうですね。

柳田：でもこれ、本当に未来世が、自分がまた未来も生まれ変わっていくとなった時にはですね、またこれ、本当に生き方変わるなっているふうに。

石崎：そうですね。

柳田：思うんですね。

石崎：視点がもう全然違うところにいきますよね。

柳田：ですね。

石崎：自分を俯瞰してみる視点がもう全然違うところについて、またライフチェンジとかですね、自分のデザインを変えていきますよね。

柳田：そうですね。自分、死ぬとっていたらね。

石崎：そうですね。

柳田：生き返らないとっていたらあれですけども、また生まれ変わるんだというふうにした時には、今の生き方、確かに変わってきますけれども大野さん、未来世を今世で生きるにはというところ、聞いてみたいんですけども。

大野：自分にとっての未来世が何かっていうのをですね、掴むといいますかね。多分、こういったストーリーっていうことがですね、お分かりになった皆さんは、今世はこうしようと。で、来世はこうしようっていうのはおぼろげながらいいですかね、想像できるかと思うんですけども、ところが、その来世っていうのを別に未来に経験する必要は実はないんですよ。

柳田：そこがすごい考え方ですよ。

石崎：そうですね。

大野：結局、これはもう脳に入ってくる情報量といいますかね、それが今世と来世で変わるということなので、来世の情報をですね、今世のうちに入れておけば経験した





ことになっちゃうんですね。その結果どうなるかといいますと、来世、またその次の来世っていうふうに見ていってですね、全部、今世に入れてしまうと。そうしますと、自動的にこの81回という人生をですね、早く終えることができるんですね。で、終えることのメリットは何かといいますと、いわゆるこの時空間という4次元からですね、その上の次元に抜けることができるわけです。仏教的にといいますと、輪廻転生っていう表現がありますけども、そこから解放されるわけなんですね。で、一回解放されますと、今度は好きな人生を選んでもいいですし、自分のやりたいことをね、想像してもいいといいますか。

柳田：そのために過去世、未来世知って、もう今世で生き切ってしまうと。

大野：そうですね。ですから、そういった提案をしているということですね。

柳田：ついに全貌が見えてきましたけれども。

石崎：そうですね。

柳田：そういった意味でですね、今回、こういうお話をさせていただいているわけですね。

石崎：そうですね。普通の僕は人間ですけど、やっぱり、今この瞬間、自分の五感だけで捉えてさまざまに飛び交っている情報ですね。特にインターネットとかそういうのもあるんで、その中で翻弄されながら日々いたずらにですね、時間を過ぎ去っていったりとか、あと皆さんが好きないろんな分野の目標設定ですね。お金であったり、健康であったり、人間関係。で、それすらもですね、やっぱり今、この五感で捉えた中でしかやれてないわけですね。で、それって生き切っていることになるのかって話なんですよ。

2回目に来ていただいた吉川さんなんか見ていただくと、まさにそういうことをですね、実践されている方だになっていうふうに。多分あの方は、死ぬ時に「楽しかった」って死ぬ方だと思います。「自分の人生、生き切った」って言って亡くなってく方だと思うんですよ。で、私もそれは自信があるんです、今。「楽しかった」って。「生き切った」って言える自信はある。ありますよね。

柳田：今のところ。





石崎：今のところね。それをしたいんで、より、無意識の世界っていうのは本当に、いろんなことがまだ解明されていませんし、逆に言えば、それだけ可能性がある分野なので、そこをしっかりとね、皆さんやっていただけると、ライフチェンジは当然してきますね。

柳田：そうですね。でも本当、そういった意味で今回、ライフチェンジとかですね、そういうお話をしてきたわけなんですけれども、だいぶここで、今回まで見ていただいた方はですね、分かっていたいたんじじゃないかなと思いますし、これ、むしろ本当に僕たちが伝えたいのは、もちろんこういう、ある意味、スピリチュアル的なことっていうのをすぐ理解されている方はたくさんいると思うんですけれども、そうじゃない方、経営者の方であるとか、ビジネス、バリバリやってる方とかね、お金稼いでいるような方々にこそ、こういったところにですね。

石崎：そうですね。

柳田：知っていただきたいなというところですよ。

石崎：本当にそうですね。経営者の方とか本当に、僕は何度も言っていますけど、エネルギーもあるしね、人間的な魅力もあるし、人を引っ張る、要は才能があるわけですから。で、意外にこういう勉強がですね、まだ手薄だと思うんですよ。中には一生懸命されている吉川さんみたいな方もいらっしゃいますけど、ここをやれば更にですね、その方がライフチェンジしていくし、業績も変わってくると思うしね。

柳田：ですから、もうぜひですね、石崎さんもそうですし、吉川さんもそうですけれども、こういったところにどんどん、どんどん気づいている方、本当に、本物の情報だということであらわれている方もたくさんいらっしゃいますので、ぜひですね、そういった方にも、またね、セミナー本編でもお会いしたいなと思うんですけれども。

最後ですね、いつも出ているこちら、「81」という数字ですけれども、今回は81回に込められた意味ということで、先ほどもちょっと大野さんからもお話はいただきましたけれども、もう一度、言える範囲でお願いできますでしょうか。

大野：結局、この81回っていうのはですね、この人間としての人生といいますかね、そこを抜けるために必要な回数っていう捉え方ができるんですね。つまり、時空間とかいろんな制約の中でわれわれは生きていますけれども、そこを超えた世界っていうのが実際あるわけですね。私どもはそれを「5次元」っていうふうに呼んでいますけ





ども、そうしますと、この 81 回ってというのはですね、見ようによっては学びの回数とも言えるんですよ。

つまり、この 81 回生まれ変わることによっていろんな学びをするわけですよ。で、それを終わると次のステップに行くっていう見方もできるんですが、であればですね、この 81 回に学ぶ内容をまとめて、今世にダウンロードすればですね、もう自動的に抜けられるっていうことになるわけですね。

柳田：今回の話を聞いていて思ったんですけども、例えば学校の勉強っていうのは、6 年間行って、3 年間行ってとかあるじゃないですか。3 年間行ってとか、中学、高校と。で、それをある意味、頭のいい人って、特にアメリカとかで。

石崎：飛び級とかですね。

柳田：飛び級でポンとっちゃうじゃないですか。

石崎：そうですね。

柳田：それとちょっと違う話かもしれませんが、先にもうそれをやっちゃって、その後、例えばそれですぐに社会に出る人もいますけれども。

石崎：本当に若くても、もう老成しているような人いますよね。こいつ、半端ないな。で、その時に人生 1 回だけじゃないな、こいつはみたいな会話が自然に出たりするんですよ。何回目の人生の野郎だなみたいな、本当に出るんで、あまり年齢とか本当、関係ないなっていうのは結構、経験ありますよね。

柳田：そうですね。今でもそういう本当に飛び級の天才とかも、たくさん生まれていますけれども。

石崎：そうですね。

柳田：そういった観点で考えると、確かに 20 年待って働く必要もないですし、本当に飛び級しちゃって、勉強終わらせて、すぐに社会に出てやりたいことをやるっていうのを、ある意味。

石崎：そうですね。





柳田：そういう話かなと思ったんですけれども。

石崎：尺度って結構、世間とかそういうのが、概念があって決めるじゃないですか。結婚適齢期とかもそうでしょうし、そういう、何ていうかね、20代は子どもだと。30代でようやく社会の中枢の入り口にやっと立てるみたいなの、そういう、何かあるじゃないですか。漠然としたものが。ですけどやっぱり、超越している人っているんで、もう22〜3 すごいい…。

柳田：いますね。

石崎：経験よりですね、スピード感のほうが今、優位性をもっていたりする時代になっちゃったんですよ。

柳田：そうですね。

石崎：経験っていうのはもう AI に変わられちゃったりですとか、ネットを探せば出てきたりとかするので、やっぱりスピード感持った方がですね、やっぱりリーダーになっっていくないといけないなと思うんですよ。

柳田：そうですね。今、こうやって現世で起きている、そういう、年齢もそうですし、飛び級とか含めてですね、どんどん早い人たちが生まれているっていう現象をこうやって俯瞰してみた時には、今回のテーマ、過去世、未来世、今世って考えたらですね、それを、僕らもこれやっていますけど、このテーマを今。時代がそうしているのかなと思ったりもするんですけれども。

石崎：そうですね。そういうちょっと、私たちが感知できないですね、エネルギーが働いているような気がしますね。

柳田：10年目だったらできないような話かもしれないですもんね。

石崎：そうですね。

柳田：大野さん、その辺りどうですか。

大野：そうですね。確かに10年前っていいですかね、少し前だと全く何言ってるんだろ





うっていうことになったと思いますし、ヘタするとね、宗教的な詐欺っていうかですね、捉えられ方もあったんじゃないかと思いますけども。

ただ考えてみますとですね、この10年間でやはり情報量っていうのはもう圧倒的に増えてきたわけですよね。それまで表に出てこなかった情報がですね、これはいいも悪いもありますけども、この情報化社会っていう中においてですね、格段に増えてきたと。

で、出てきますと当然、情報の精度といいますかですね、それは吟味されちゃいますんで、本物でないものは消える運命にはありますけども、一方、この生まれ変わりとかですね、過去世とか未来世っていう内容はですね、昔から本当はあった概念ですが、ここに来てアメリカのケースとかいろいろ含め、急浮上してきているといいますか。つまり、それがすごくですね、人々が求めているテーマであり、やっぱりそこを解消しないとですね、次のステップに行けないっていう、そういう意味だと思うんですね。

柳田：今の問題って本当に、そういったところも過去世、未来世から考えていかないと解決できない。

石崎：そうですね。

柳田：ものばかりですよ。

石崎：そうですね。もうちょっと、大きな意識視点ですね。そういうのを土台にですね、やらないといけないなっていうふうに思いますよね。

柳田：セッション3もですね、お伝えしてきましたけれども、今回ですね、聞いていただいて、何かやっぱり感じるものがある方ですね、は、ぜひこちら、毎回ご案内していますけれども、体験セミナーにお越しいただきたいなと思います。

石崎：そうですね。

柳田：そして12月、体験セミナーありますけれども、来年からですね、本編のプログラムというのもやっていきますので、ここでは本当に、今はですね、無料でお渡ししているのと言えないこともあるんですけども、本編のほうではよりですね、皆さんの本当に過去世を知り、未来世を知り、今世を生き切れるようなですね、内容をお届け





けしていきますので、楽しみにしていただきたいなと思いますね。

石崎：そうですね。ちょっと造語が浮かんだんですけどね、やっぱり量子的な靈性を人生に取り入れるっていうことをした上で、いろんな設計していったほうがいいと思うんですよね。

柳田：量子的靈性、なるほど。

石崎：多分、そういう言葉ないと思うんですけど、ちょっとひらめいたんでお伝えしたんですけど、量子的な靈性、量子的靈性をね、取り入れるっていうことですね。

柳田：そうですね。前回の吉川さんもそうですけれど、やっぱそういう、見える世界、見えない世界両方ですね、取り入れて事業もされてらっしゃいますし、特に本当に現世、あるいは現場でバリバリ、ビジネスとかやられている方にこそ、来ていただきたいなと思いますね。

石崎：そうですね。若いね、方たちもぜひね、来てほしいですね。

柳田：そうですね。

石崎：皆さんが背負ってくわけですから。これからは。

柳田：本当ですね。もう早くそれ知って。

石崎：早いほうがいいですね。

柳田：生き切ったほうがいいですもんね。

石崎：早いほうがいいですよ、本当に。

柳田：次回はですね、セッション4ということでこちら、次回いよいよですね。転生自由七科、THE LIFE CHANGE、命運轉換プログラムの全貌をついに公開させていただきます。こちら、本編、本編と言っていた本編ですね。

どういった内容をやるのかというのを公開させていただきますので、引き続きですね、ご覧いただきたいと思うんですけども、最後に、セッション3まで来ましてけ





れども、一言ずついただきたいと思います。石崎さん、お願いします。

石崎：さっきね、思いついた言葉ですけど、本当に見えない世界をうまく使いながら、で、意識をですね、広げるだけ広げて、そんな中でですね、人生をリデザインしていただけるといいかなと。それがやっぱりさっき言った、量子的靈性をですね、自分に、土台の一つにしてですね、展開していくとぶれない。それでいて、生き切れる人生になるんじゃないかなというふうにな、思います。ぜひお越しくださいませ。

柳田：最後に大野さん、お願いします。

大野：今回ですね、81回の生まれ変わりということでお話ししましたが、そうやってきますとですね、自分の人生のストーリーだけでなく、本当に全ての流れのですね、ストーリーが見えてくるんですね。もう前世も未来世も含めてですね。そのストーリーを自分の中で描けますと、当然そのとおりにものごとが運んでいきますし、何よりもですね、この81を終えることによって次の次元に飛躍できるんですね。

そうしますと、いうなればですね、よく神といいますかね、創造主って言い方をしますけども、その立場で現実を作りですね、それを楽しむことができるっていう、そういう自由な位置に飛べるんですね。で、その位置に行くのがですね、私どもはこの人類の意識進化だと思っていますし、この転生繰り返しているうちはですね、やっぱりまだ閉じ込められた中でのお話なわけですね。

ですから、そこをジャンプして、新たな領域に飛び込むことによってですね、人間が本当に創造主というか、いわゆる主になれるわけですね。ぜひそこにですね、皆さんに来ていただきたいと思いますし、私どもは神道や言霊、また最先端の科学っていうのを含めてですね、そこにいくための開発をやっているわけなんですね。ですから、今回のテーマにふさわしいですね、さまざまなメソッドをですね、ご提供できると思っております。

柳田：それがいわゆる、このテーマに出ている転生の自由七科ということで、本当に命運を転換するためのですね、皆さんが学ぶべき内容っていうのをしっかり用意しております。これは次回、詳しくお伝えしたいと思いますので、楽しみにしててください。ということで、セッション3も石崎さん、大野さん、ありがとうございました。

石崎：ありがとうございました。



柳田：皆さんもありがとうございました。

大野：ありがとうございました。





最後までお読みいただき、ありがとうございました。

Session 3 をご覧いただいたのコメントをお願いします。

今回は以下の質問への回答をお願いいたします！

出来れば全てコメントいただきたいですが、何でも結構です。

まずはコメントすることが大事ですので、ほんのちょっとでも投稿してください。

**1, Session3 でのあなたの学び**

**2, 石崎さん、大野さんに聞いてみたいこと、  
2人へのメッセージ**



コメントいただいた方には、下記をプレゼントいたします。

Session 3

**「過去生も未来生も含めて生き切る」完全版**

を差し上げます!!

さらに!!

**七沢研究所 研究員**

**『森田氏との本音座談会動画』**

本編では語ることはできなかった本音の話を  
七沢研究所から森田さんをお招きした特別収録版です。

☆コメント、コメント特典のご請求はこちらから☆

⇒ [http://the-life-change.jp/fn/?page\\_id=712](http://the-life-change.jp/fn/?page_id=712)

